

委員質問・意見等への回答

平成28年9月7日

刈羽村

(8月8日) 受付分

(高桑委員)

● 新潟県、柏崎市、刈羽村 に対する 質問

原子力防災に関する質問

① 自然災害との複合災害を前提とするには、示されている防災計画では不十分です。屋内退避が不可能な場合や避難道路の不通など、想定できる状況について、どのように対処するのかをガイドブックに明記する必要があるのではないのでしょうか。

② 現在示されている防災計画は、何処に避難するのかで終了となっていますが、原子力災害は避難場所の更なる移動や避難の長期化が考えられます。その場合の対応などが全く白紙の状態です。避難後、落ち着いた生活を取り戻すまでの見通しをガイドブックに示す必要があるのではないのでしょうか。

回 答 (①・②)

原子力災害には広域対応が必須です。計画の修正については、国や県とのすり合わせが必要となります。

あらゆる事態の想定はしっかりと行ってまいりますが、様々な事態対処の一々をガイドブックに示すことは適当でないと考えます。むしろ困惑をもたらし、迅速な行動を阻害しかねません。ガイドブックに示す内容については今後も十分に精査し、避難後の対応についても必要な情報は記載いたします。

③ ②の為にも、福島事故避難住民の避難後の問題点の把握は必要と考えます。福島県・立地自治体に対して、原子力災害時における行政としての問題点や課題の調査をしたことはありますか。
調査済みであれば、どのような問題点があると捉えていますか。
調査していないならば、避難後の問題点等の把握について、今後、調査の必要があると考えますか。

回 答

村として具体的な調査をする予定はありません。問題点は研修会や協議会などの機会を通じて十分に認識しております。今後も引き続き課題の把握と対処に努めてまいります。